

平成29年度 第2回和光市スポーツ推進計画中間見直し委員会 会議録（要録）

1 日 時 平成29年12月12日（火）19時00分～20時30分

2 場 所 和光市役所 6階 603会議室

3 出席者 9名

委員名	選任の区分	備考
○飯田 路佳	第1号委員 (学識経験を有する者)	十文字学園女子大学人間生活学部 健康栄養学科
山下 玲		学校法人東洋大学ライフデザイン学部 健康スポーツ学科
山崎 正治	第2号委員 (市内関係団体を代表する者)	和光市体育協会
◎朽木 亮		和光市スポーツ推進委員連絡協議会
下島 幸泰		和光市スポーツ少年団本部
西 貴美雄		和光市小中学校長会
大川 義視 (代理出席)		東上地区私立幼稚園協会 和光支部
浅黄 祐樹		
濱田 賢一	第3号委員 (公募による市民)	

◎委員長 ○副委員長

(事務局) スポーツ青少年課 亀井課長、庄課長補佐、野口統括主査、力石主任

4 欠席者 2名

委員名	選任の区分	備考
富澤 甚五郎	第2号委員 (市内関係団体を代表する者)	和光市身体障害者福祉会
清水 武		和光市生きいきクラブ連合会

5 傍聴者 なし

議題1 第1回中間見直し委員会、第2回中間見直し庁内委員会の開催結果について

事務局説明

資料1 第1回中間見直し委員会 結果

資料2 第2回中間見直し庁内委員会 結果

【委員長】何か質問等はあるか。

【一同】なし。

議題2 スポーツ推進計画改訂版素案について

事務局説明

第1章 計画の中間見直しにあたって

第2章 和光市における現状と課題

▼スポーツ実施率について

- 【浅黄委員】10頁の男女、年代別スポーツ実施率について、計画策定時のデータはないか。
- 【事務局】策定時は男女、年代別のクロス集計のデータを出していない。また、全体数（n数）もデータとして評価できるだけの数ではない。
- 【委員長】スポーツ実施率（男性・年代別）の50代の数値が51.7%と突出しているが、種目が分かるようなデータはあるか。例えば、和光市のゴルフ練習場の打ちっぱなしは団塊の世代の男性でいつもいっぱいなため、そうした状況が反映されているのではないか。また、ゴルフだけで他のスポーツをやっていないのであれば勿体ないので、ゴルフ人口が多いとかの傾向が分かればよい。
- 【事務局】アンケートでは、競技スポーツか、レクリエーションスポーツかの確認しかしておらず、細かい種目についてはデータがない。

▼スポーツをやらない理由について

- 【浅黄委員】12頁下段の、スポーツをやらない理由について、前回濱田委員から質問のあった「忙しく時間がない」人の「忙しい」理由の深堀り結果は出たか。
- 【事務局】12頁の下から3行目の全くやらない人が今後スポーツをやりたい時間帯について、平日午前が最も多く、20～30代女性にこの回答が多くみられた。そのほか、土曜日や平日夜間も回答が多い時間帯であった。現在はターゲットをしぼったスポーツ事業展開をしていないため、今後は年代や性別等のターゲットをしぼった上でやらない理由を解決していけるような事業展開が必要ではないか。

事務局説明

第3章 スポーツ推進計画の数値目標と実施施策

第4章 計画の実現に向けて

▼経済・地域の活性化

- 【山下委員】25頁下段図中の「経済、地域の活性化」は、どの大目標、中目標を達成すると実現されるのか。
- 【事務局】今後民間業者等とも連携するので「経済、地域の活性化」としている。また、大目標、中目標を達成することで全体的な大きなくりで「健康増進」、「共生社会の実現」、「経済、地域の活性化」が実現するという意味で掲載している。また、「健康増進」、「共生社会の実現」、「経済、地域の活性化」については4頁の「国の動向」の地方公共団体に期待することを踏まえている。
- 【山下委員】経済の活性化は、外から和光市に人が入ってくることを意味する。今後の計画では、国でも示している「スポーツツーリズム」の視点が重要である。例えばアジアエアガン大会において、和光市外からどれだけの人がやって来たか、和光市滞在中に市内でどれだけのお金を使ったかを目標として掲げれば「経済、地域の活性化」が達成状況も含めて分かると思う。

【事務局】「経済、地域の活性化」については、再度検討したい。

▼スポーツに関する情報提供について

【山下委員】22頁の「する」スポーツの課題で、情報提供の仕組みやあり方を変える必要性が言及されているが、31頁の「支える」スポーツの実施施策に「ボランティア情報のプラットフォームの導入」があるので、このプラットフォームの中にスポーツ施設の情報等を掲載すれば「する」スポーツの課題解決ができるので併せて検討してほしい。

▼大目標・中目標について

【山下委員】国県の計画ではスポーツ参画人口を増やすことが目標となっているので、本来は、大目標に「する」「観る」「支える」のスポーツ全体の参画人口についての目標があり、中目標に「する」「観る」「支える」それぞれのスポーツの目標を立てるべきではないか。

【濱田委員】26頁からの実施施策について、24頁の中目標のどれに対応しているかが分からないと、計画の進行管理において、評価や見直しができない。

【浅黄委員】例えば、24頁、25頁の中目標において現状値が上がっているものは、どの施策の効果で数値が上がったか、数値が下がった原因は何かについて、現計画では検証できない。

次期計画では、施策のどれが効果的で、どれを修正する必要があるかが検証できるような施策展開になればよい。

【委員長】浅黄委員の意見にあった施策の効果が分かるようにするとすると、アンケートの聞き方が難しい。スポーツをやらない理由の「忙しく時間がない」と回答した人達は本当に忙しいのか、施設が見つけれられないのか、見つけようとしていないのか、などの理由の深堀りができるようなアンケートを検討した方がよい。

【事務局】現計画では中目標達成のため、包括的に施策を打ち出しており、1つの中目標に対して複数の実施施策が関係している。次期計画では、目標に対応する施策展開になるよう検討したい。

▼民間企業等との連携、協働について

【濱田委員】34頁の「(2)学校、スポーツ団体、民間企業等との連携、協働」における民間企業について、現状で指定管理者以外に連携、協働の実績はあるのか。

【事務局】民間企業については西武ライオンズとの連携の実績がある。

【濱田委員】硬式テニス連盟の例で言うと、大会参加者を市内のテニススクールから募集している。スポーツをするきっかけづくりに繋がるので今後、市内の民間スポーツ施設等との連携、協働をして検討してほしい。

▼スポーツ少年団加入率について

【浅黄委員】スポーツ少年団加入率について市はどのような施策を展開しているのか。

【事務局】スポーツ少年団加入率増加に向けては、校長会を通じて全児童にスポーツ少年団の案内チラシを配付している。また、各単位団についても、体験教室を開催するなど団員獲得に向けて活動している。

▼次期計画に向けて

【副委員長】今から現計画の内容を変えていくのは難しいので、次期計画のための考え方についていくつか意見する。

まず、26頁の下「習うスポーツの充実」について、習うスポーツは悪いことではないが、やらされている子を増やすリスクを感じる。例えば、プロスポーツを観る機会を提供し、そこから習うスポーツに誘導するような仕組みがあれば良いが、親が自分の夢を子どもに託してスポーツをやらせることもある。新学習指導要領では生涯スポーツや自主性を今後更に強調していくと思うので、外からの働きかけではなく自主的な参加について考えた言葉選びを検討してほしい。

「する」スポーツの課題に、情報提供の仕組みやあり方について言及があったが、広報・宣伝方法を工夫することで中目標達成のヒントになる。

また、「観る」スポーツは、これから東京オリンピック・パラリンピック競技大会を迎えるにあたり大変重要であるが、自宅でスポーツ観戦する人もいる。自宅観戦した人の統計は取れないが、例えば和光市のホームページに観戦した人たちをカウントできるようにして、観戦者数を数値化する等の方法もある。

スポーツを全くやらない人は、スポーツ好きがいくら勧誘しても心が動かないが、自宅観戦を「観る」スポーツに含めるような、スポーツ参加全体のハードルを低くすれば、スポーツを全くやらない人が減る。

同時に、大目標の「スポーツをする人」の中にスポーツを「する」「観る」「支える」人を含める、というような大胆な発想で、市民一人ひとりがスポーツ参加の自覚を持てるように検討してほしい。

事務局説明

資料編

【委員長】何か質問等はあるか。

【一同】なし。

【委員長】本日の会議で言い足りない部分や意見等があれば、事務局まで出してほしい。以上で会議を終了する。